

先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC)

第 10 回 総 会

議 案 書

2019 年 10 月 7 日(月)

於 日本ユニシス(株)

目 次

第 1 号議案 第 9 期(2018 年度)活動報告の件	
・ 活動実績.....	1-1
第 2 号議案 第 9 期(2018 年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第 3 号議案 第 10 期(2019 年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	3-1
・ 第 10 期(2019 年度)の活動計画	3-2
第 4 号議案 第 10 期(2019 年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	4-1
第 5 号議案 第 10 期(2019 年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	5-1
付属資料	
・ 第 10 期(2019 年度)活動のご紹介.....	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITC における年度は下記の通りです。

第 1 期(2010 年度):	2010 年 9 月 8 日～2011 年 8 月 31 日
第 2 期(2011 年度):	2011 年 9 月 1 日～2012 年 8 月 31 日
第 3 期(2012 年度):	2012 年 9 月 1 日～2013 年 8 月 31 日
第 4 期(2013 年度):	2013 年 9 月 1 日～2014 年 8 月 31 日
第 5 期(2014 年度):	2014 年 9 月 1 日～2015 年 8 月 31 日
第 6 期(2015 年度):	2015 年 9 月 1 日～2016 年 8 月 31 日
第 7 期(2016 年度):	2016 年 9 月 1 日～2017 年 8 月 31 日
第 8 期(2017 年度):	2017 年 9 月 1 日～2018 年 8 月 31 日
⇒ 第 9 期(2018 年度):	2018 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日
⇒ 第 10 期(2019 年度):	2019 年 9 月 1 日～2020 年 8 月 31 日
第 11 期(2020 年度):	2020 年 9 月 1 日～2021 年 8 月 31 日

第 1 号議案

第 9 期（2018 年度）活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第9期の活動総括

設立9年目の今期は下記の重点施策を達成すべく、IoTやAIはもとより量子コンピューティングまで先進性の高い技術領域に幅広く取り組み、会と活動の一層の充実を図ることができた。また、いずれの活動でも終了後に開催する「懇親会」では講師と有志が集い、企業や職種、年齢や経験等を超えて交流し、情報や知見交換する有意義な場を提供することができた。

【第9期の重点施策】

- ① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化
- ② 情報と知見の発信を更に強化し、先端ITの普及促進で社会貢献
- ③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化
- ④ 会期末(2021年8月末日)に向け、AITC活動の集大成となる活動を計画&実行開始

【第9期の主な取り組み】

・部会活動:

—AITCの中核である部会活動では「IoT」、「機械学習／深層学習／強化学習」、「量子コンピューティング」、「AR+VR+MR」等の技術分野への取り組みに加え、「コンテンツの信頼性評価」に関する研究活動も活発に行われた

—IoT、AI、AR+VR+MR活動は協働プロジェクトの中に発展的に取り込み、また量子コンピューティングの活動資料は会員限定の勉強会に活用するなど、部会と他活動との間でスキルとノウハウの伝播とフィードバックが行われた

—学会の場で活動成果を発表あるいは論文を投稿するなどして先端ITの活用について訴求するとともに、学会関係者から得た知見等を取り込むなどして活動充実に努めている

コンテキスト・コンピューティング研究部会:

DEIM2019(第11回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)

論文「コンテンツの信頼性評価に関する考察」を投稿

ユーザーエクスペリエンス技術部会:

ヒューマンインタフェース学会 論文誌「ユーザーインタフェース／ユーザーエクスペリエンスのデザイン(UI/UXのデザイン)」

論文「マンガ駆動開発によるUXデザインの実践」を投稿

ビジネスAR研究部会:

論文「空間OSによるエージェントのデータ共有と相互運用」を人工知能学会 SWO 研究会(2019年8月23日)で発表

・協働プロジェクト活動:

—5部会連携による協働プロジェクト「空気を読む家」においては、メンバー間のコンセンサス醸成に「マンガ駆動開発」を活用するとともに、各種の機器を「空間OS」に連結したデモ開発に取り組むなど、AITCオリジナルの技術と先端ITの利活用推進を5部会で分担し新しいシナリオの作成からプロトタイプデモの構築まで取り組んでいる

—空間OSの論文を人工知能学会 SIGSWO において発表

・会員限定の勉強会活動:

今期は「身近になったAI開発～ツール勉強会」と「プログラマーのための量子コンピュータ」をテーマに開催し、好評を得た

—以前はプログラマー以外にはハードルが高かった TensorFlow 等が主軸であったAI開発の分野において、最近では様々なツールが誕生し、AI開発がぐっと身近になった。この状況を受け1月より開始した「身近になったAI開発 ツール勉強会」では MAGELLAN BLOCKS や Neural Network Console をハンズオン中心に仕組みを学び、身につける場を提供した

—量子コンピュータについては、クラウド・テクノロジー活用部会メンバーが独学の成果を資料化し、部会で実習を済ませた上で勉強会を開始した。体系的にして、判り易く、ハンズオンも可能な勉強会として高い評価を得た

・オープンな活動分野

—「身近になったAI開発」、「量子コンピューティング」両シリーズのオープンラボには会員、非会員ともに多数が参加、活発な質疑応答を交えた熱気溢れるセミナーが実施された

特に、量子コンピューティング シリーズは AITCらしい先進的な取り組みとして高い評価を得た

—発足5期目を迎えた「シニア技術者勉強会」では大好評の「一からはじめるIoT勉強会」が3周目から4周目に入り、IoTでやりたいことを考え試作に取り組む活動が佳境に入っている

—AITC女子会では来期の「機械学習勉強会」の立ち上げを目指し、コアメンバーが鋭意準備に励んでいる

上記の通り、第9期は会員のみが参加可能な部会や協働プロジェクトに加え、非会員も参加できるオープンラボにおいて「量子コンピューティング」や「身近になったAI開発」両シリーズで旬の技術領域に関する情報提供の場を提供し、座学と体験の場を提供し、AITC全体として着実な進展が見られた。一方、部会や協働プロジェクトの活動へ会員企業からより多くの技術者、特に若手技術者に参加して欲しいという長年の課題については、重点施策①②をもって改善努力を重ねており、一部には若手の新しいメンバーや多様なメンバーの参加があったものの未だ不十分であり、次期においても改善にむけて一層注力する必要がある。

第9期活動実績

■会員数

2019年08月31日現在:総会員数78会員(法人&個人事業主会員:33、個人会員:37、学会会員:4、特別会員:4※)

2019年10月07日現在:総会員数72会員(法人&個人事業主会員:28、個人会員:38、学会会員:2、特別会員:4※)

(参考)

2018年08月31日現在:総会員数88会員(法人&個人事業主会員:37、個人会員:42、学会会員:5、特別会員:4※)

2018年10月01日現在:総会員数83会員(法人&個人事業主会員:34、個人会員:40、学会会員:5、特別会員:4※)

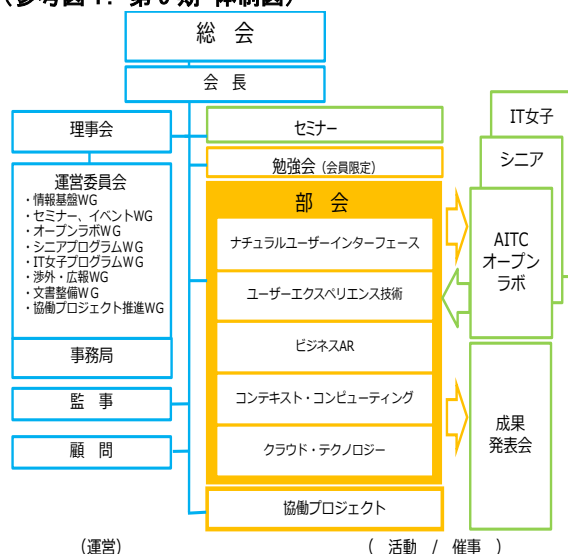
※特別会員:産業技術総合研究所、気象庁、消防研究センター、防災科学技術研究所

■運営関連の活動実績

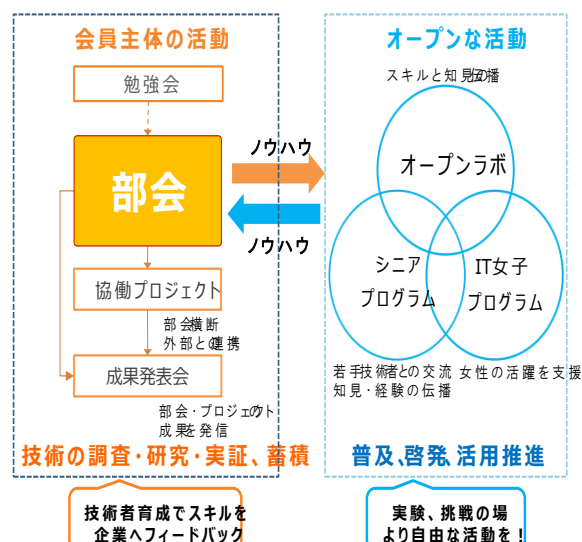
1. 年次総会: 1 回 2018 年 10 月 01 日
2. 理事会: 開催 2 回、ML 審議 2 回
3. 運営委員会: 開催 13 回、SNS 審議 10 回
活動内容: (1)入退会管理
(2)収支管理
(3)セミナー・イベント企画・運営: 総会、成果発表会、AITC セミナー、AITC オープンラボ
(4)会員向け活動支援(部会、協働プロジェクト、会員限定勉強会)
オープンな活動(オープンラボ、シニアプログラム、IT 女子プログラム)
(5)情報基盤:ドメイン&サーバー管理
(6)渉外・広報: AITC パンフレット更新、AITC ニュースレター発行
(7)外部組織・団体との連携/協力:
活動企画・運営: 気象庁、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)
情報処理学会
活動発表の場として: DEIM2019(データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)
ヒューマンインタフェース学会
(8)会員アンケートの実施、サマリー公開: 第 9 期会員アンケート

■会員主体の活動(部会、協働プロジェクト、勉強会)活動実績

(参考図 1: 第 9 期 体制図)



(参考図 2: 活動の種類と関係)



1. 第 8 期(2017 年度)活動成果発表会

2018 年 10 月 1 日 第 9 回総会第 1 部として実施
参加者: 71 名(会員 66 名、非会員 5 名)

2. 部会

(1)クラウド・テクノロジー活用部会(2011 年 5 月発足)

- 1)開催実績: 月例会 12 回、参加者 78 名
- 2)活動内容:
 - ・ 情報交換(イベントへの参加、ニュース、その他)
 - ・ 参加者が講師となり、内部勉強会を開催(担当者)
FIDO 認証モデルについて(宮地)
Google Colaboratory を触ってみる(荒本)
IETF 報告会(103rd バンコク) / IETF103 Update Meeting(宮地)
ROS2 チュートリアル(佐伯)
Cloud9 を触ってみよう(荒本)
様々な AI 画像認識を動かしてみよう(荒本)
SONY Neural Network Console 勉強会(荒本)
プログラマーのための量子コンピュータ入門(宮地)
第 1 回: 関連数学基礎と量子ビット編
第 2 回: 量子ゲート型のプログラミング
第 3 回: 量子アニーリング型のプログラミング
 - ・ 参加者が講師となり、『ゼロから作る DeepLearning(2)』を輪読
 - ・ 部会内の成果を勉強会で AITC 会員向けに実施(担当者)

プログラマーのための量子コンピュータ入門(宮地)

2019 年 7 月 25 日「第 1 回、関連数学と 1 量子ビット計算編」

2019 年 8 月 26 日「第 2 回、量子ゲート型のプログラミング」

(2019 年 9 月 26 日「第 3 回、量子アニーリング型のプログラミング」)

- ・ 気象庁 XML の取得 API の運営を継続
運用期間を 2021 年 8 月まで延長
- ・ 外部団体との連携
東京都立産業技術研究センター『IoT テストベッド』を見学
OsSAL の紹介
- 3) 外部イベントで発表
 - ・ ソフトウエアジャパン 2019「IT フォーラムセッション」(2019 年 2 月 5 日)
- 4) 活動成果、および公開資料&掲載 URL
 - ・ 「『空気を読む家のキッチン』キッチンにおけるデータ収集」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/31-133093969

(2) コンテキスト・コンピューティング研究部会 (2010 年 10 月発足)

1) 開催実績: 月例会 11 回、参加者 51 名

2) 活動内容:

- ・ 思弁的实在論
「AI 原論」(西垣通著)を輪読し、思弁的实在論を通した汎用的人工知能への評価について議論
「思弁的实在論は現代科学を支えるための哲学である」
素朴实在論、主観主義的形而上学と充足理由率、神学論、潜勢力と潜在性(偶然性)
- ・ 個人の意思決定に有用な情報コンテンツの信頼に関する考察
第 11 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラムへ論文投稿・発表
意思決定理論、信頼の構造、議論の技法、説得の科学
- ・ 情報の信憑性に関する研究動向
情報信憑性の構成要素とユーザ側の意識
情報信憑性の評価アルゴリズム
ウェブ情報の信憑性の判断支援システム
信憑性判断と認知バイアス
- ・ 「AI のファシリテータを交えて名古屋市次期総合計画について議論する社会実験」
CREST のプロジェクト HAMAgree に参加し活動を観察
- ・ 「空気を読む家」
「プリン」を題材に、食品ロスを減らすための知識について議論
情報内容の信頼に関連する「知識の可視化モデル」の検討
「危険」とは何かに関する議論と転倒予防学会
「倒れた人」に対する行動の意思決定、論理に関する議論
「ヒートショックを防ぐ」ための論理に関する調査
- ・ 空間 OS に関する情報共有
- ・ 「知識」関連の技術動向共有

3) 外部イベント発表

- ・ ソフトウエアジャパン 2019 IT フォーラムセッション(2019 年 2 月 5 日)
- ・ 第 11 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(2019 年 3 月 4 日~6 日)

4) 活動成果、および公開資料&掲載 URL

- ・ 「コンテンツの信頼性評価に関する考察」
http://aitc.jp/pubs/cc/CC_deim2019.pdf
- ・ 「コンテキスト・コンピューティングで紐解く『空気を読む家のキッチン』」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/4-133094457

(3) ビジネス AR 研究部会 (2011 年 7 月発足)

1) 開催実績: 月例会 12 回、拡大部会 2 回、出席者 79 名

2) 活動内容:

- ・ 空間 OS の開発
協働プロジェクトに協力
上記の一環で、情報処理学会ソフトウェアジャパン 2019 IT フォーラムセッション(2019 年 2 月 5 日)で発表
人工知能学会 SWO 研究会(2019 年 8 月 23 日)で発表
- ・ AR 等の最新アプリケーション・ガジェットを体験
Oculus Quest
Cluster
VR Chat
上記ソニーショールーム見学会で各種体験
- ・ VR 遠隔 MTG の検討及び実践
上記拡大月例会や毎月の月例会等で検討及び実践

- ・ AR 関連事例の共有
AITC SNS で 132 件の事例を引用した上、SNS や月例会で意見交換
- 3)外部イベントで発表
 - ・ ソフトウェアジャパン 2019「IT フォーラムセッション」(2019 年 2 月 5 日)
- 4)活動成果、および公開資料&掲載 URL
 - ・ 「空間 OS」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/33-133094186

(4)ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011 年 12 月発足)

- 1)開催実績:21 回(Web 会議) 参加者:61 名 (ナチュラルユーザーインターフェース活用部会と共同開催)
- 2)活動内容:
 - ・ 「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」執筆を中心に活動
 - ・ 協働プロジェクト『空気を読む家』における実証実験においてマンガ駆動開発プロセスを実践。開発プロセスのブラッシュアップを実施し、「プロット」フェーズと「ネーム」フェーズの位置づけを明確化した
 - ・ マンガ駆動開発に関する論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」を執筆し、体系的な整理を実施した
- 3)活動成果
 - ・ ソフトウェアジャパン 2019 IT フォーラムセッション(2019 年 2 月 5 日)
- 4)公開資料&掲載 URL
 - ・ 「マンガ駆動開発によるデザインプロセス」https://www.slideshare.net/aitc_jp/2-133093870
 - ・ 論文「マンガ駆動開発による UX デザインの実践」(成果物として公開予定)

(5)ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2011 年 12 月発足)

- 1)開催実績:21 回(Web 会議) 参加者:61 名 (ユーザーエクスペリエンス技術部会と共同開催)
- 2)活動内容:
 - ・ 協働プロジェクト『空気を読む家』におけるナチュラルユーザーインターフェース技術の活用を議論
 - ・ 『空気を読む家のキッチン』では、圧力センサーを使った冷蔵庫内の食材認識、およびスマートスピーカーを使った賞味期限の通知インタフェースを試作
 - ・ 『人を見守る安心安全な空気を読む家』では、OpenVINO や OpenPose を使った姿勢推定による転倒検知やサーモグラフィを使った高温物質の検知を試作中
- 3)活動成果
 - ・ ソフトウェアジャパン 2019 IT フォーラムセッション(2019 年 2 月 5 日)
- 4)公開資料&掲載 URL
 - ・ 「協働プロジェクト『空気を読む家』キッチンにおけるデータ収集(2)」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/32-173695988
 - ・ 「『空気を読む家』のインタフェースとして スマートスピーカーを使ってみた」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/34-133094295

(6)協働プロジェクト「空気を読む家」(協働プロジェクト第 2 弾として 2014 年 12 月検討開始)

- 1)開催実績:4 回(合同部会) 参加者:33 名
- 2)活動内容:
 - ・ 2018 年 6 月 29 日の合同部会で議論した以下 3 つ課題から、課題 A の解決に向けた技術的実現方法を 11 月 30 日の合同部会で議論
 - 課題 A)食材賞味期限切れ問題
 - 課題 B)食器/調理器具片づけ問題
 - 課題 C)買い物重複買い忘れ問題
 - ・ その成果を 2019 年 2 月 5 日に開催された情報処理学会ソフトウェアジャパン 2019 IT フォーラムセッションで発表。
 - ・ 4 月 26 日の合同部会では、『空気を読む家のキッチン』の次のテーマについて議論。『空気を読む家』の最終テーマとして、家全体を包括するテーマとして『人を見守る安心安全な空気を読む家』を選定。現状の課題について議論。また、活動の要素技術を試作
 - ・ 検証フェーズとデータ収集・分析フェーズの 2 段階とし、今期は要素技術による試作を実施することとした
 - ・ 6 月 28 日と 8 月 22 日の合同部会では、『人を見守る安心安全な空気を読む家』を実現する要素技術の洗い出しを行った。人が転倒した後の即時ケアを実現するための姿勢検知技術と火傷を未然に予防するサーモグラフィによる高温検知にフォーカスして、試作を実施中
- 3)活動成果
 - ・ ソフトウェアジャパン 2019 IT フォーラムセッション(2019 年 2 月 5 日)
- 4)公開資料&掲載 URL
 - ・ 「ビッグデータ、IoT、AI のその次へ 協働プロジェクト『空気を読む家』～5th シナリオ 空気を読む家のキッチン～」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/1-133093712
 - ・ 「マンガ駆動開発によるデザインプロセス ～ 協働プロジェクトのためのシナリオ設計 ～」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/2-133093870
 - ・ 「協働プロジェクト『空気を読む家』キッチンにおけるデータ収集」
https://www.slideshare.net/aitc_jp/31-133093969
 - ・ 「協働プロジェクト『空気を読む家』キッチンにおけるデータ収集(2)」

https://www.slideshare.net/aitc_jp/32-173695988

- ・「空間 OS」

https://www.slideshare.net/aitc_jp/33-133094186

- ・「『空気を読む家』のインタフェースとして スマートスピーカーを使ってみた」

https://www.slideshare.net/aitc_jp/34-133094295

- ・「コンテキスト・コンピューティングで 紐解く『空気を読む家のキッチン』」

https://www.slideshare.net/aitc_jp/4-133094457

3.勉強会(会員限定)

(1)ブロックチェーン勉強会(2017 年 7 月活動開始)

1)開催実績:1 回 参加者:27 名

2)活動内容:

- ・ 2019 年度までに全 8 回実施した、ブロックチェーン勉強会の総まとめとして、2018 年 11 月 29 日に、『ブロックチェーン勉強会』を振り返るもくもく会を開催。また、ブロックチェーン勉強会で講師陣による書籍『ブロックチェーン システム設計』出版記念講演も併せて開催

3)活動成果:

- ・前期(第 8 期)の 7 月から計 9 回開催し、ブロックチェーン技術のハンズオンを通して技術習得を行う場を提供
- ・新規会員(個人会員)の入会に貢献

(2)身近になったAI開発～ツール勉強会(2019 年 4 月～2020 年 1 月(予定))

1)開催実績:第 9 期として 5 回(第 3 木曜日 19 時～21 時開催) 参加者 99 名

2)活動内容:

- ・ 4 月:勉強会(AITC 会員限定)「Neural Network Console」初級編
- ・ 5 月:勉強会(AITC 会員限定)「Neural Network Console」Autoencoder 編
- ・ 6 月:勉強会(AITC 会員限定)「Neural Network Console」CNN 編
- ・ 7 月:勉強会(AITC 会員限定)「Neural Network Console」RNN 編
- ・ 8 月:勉強会(AITC 会員限定)「MAGELLAN BLOCKS を使ってみよう！」

3)活動成果

- ・ 開発ツールのハンズオンを踏まえてグループワークで深掘し、成果と経験を文書化に着手(第 10 期に作成、発表)
- ・ 新規会員(個人会員)の入会に貢献

(3)プログラマーのための量子コンピュータ勉強会(2019 年 7 月～2019 年 9 月(予定))

1)開催実績:第 9 期として 2 回(第 3 木曜日 18 時 30 分～21 時開催) 参加者 45 名

2)活動内容:

- ・ 7 月:勉強会(AITC 会員限定)「関連数学と 1 量子ビット計算編」
- ・ 8 月:勉強会(AITC 会員限定)「量子ゲート型のプログラミング」

3)活動成果

- ・ 先進性の高い技術領域への取り組み
- ・ 新規会員(個人会員)の入会に貢献

■オープン活動(オープンラボ、シニア技術者勉強会、女子会)活動実績

1. AITC オープンラボ:開催 6 回、参加者 290 名(会員 179 名、非会員 111 名)

- ・ 2018/11/29 『ブロックチェーン システム設計』出版記念講演&ブロックチェーン勉強会を振り返るもくもく会(17 名、10 名)
- ・ 2018/12/15 第 8 期 AITC オープン活動発表会「機械学習に触れてみよう! &ーからはじめるIoT 成果発表会」(28 名、8 名)
- ・ 2019/01/16 身近になった AI 開発シリーズ第 1 回セミナー～MAGELLAN BLOCKS のご紹介(24 名、10 名)
- ・ 2019/03/13 身近になった AI 開発シリーズ第 2 回セミナー～Neural Network Console のご紹介(24 名、14 名)
- ・ 2019/04/22 量子コンピューティング シリーズ第 1 回セミナー～富士通様の取り組み紹介(27 名、23 名)
- ・ 2019/05/23 量子コンピューティング シリーズ第 2 回セミナー～IBM 様の取り組み紹介(32 名、21 名)
- ・ 2019/07/03 量子コンピューティング シリーズ第 3 回セミナー～日立製作所様の取り組み紹介(27 名、25 名)

2. シニア技術者プログラム(シニア技術者勉強会、2015 年 3 月発足)

活動実績:月次開催 9 回、参加者:190 名(会員 134 名、非会員 56 名)

活動内容:「ーからはじめるIoT 勉強会_第 3 周」(第 8 期 1 月～第 9 期 12 月)&「女子会との交流会」

「ーからはじめるIoT 勉強会_第 4 周」(第 9 期 2 月～第 10 期 1 月)&「女子会との交流会」

活動成果:2018 年 12 月 15 日オープン活動発表会「機械学習に触れてみよう! &ーからはじめるIoT 成果発表会」発表資料

- ・ 実装テーマ:想い楽器(おもいがき)、無用な争い回避システム、IoT でダウジングしてみた、スマートポスト

2020 年 1 月オープン活動発表会「機械学習に触れてみよう! &ーからはじめるIoT 成果発表会」

- ・ 実装テーマ(試作中):ランドリー、あとちょっと(調味料の残量管理)、新鮮組(賞味期限管理)、無くしもの探し

自分専用アメダス

3. IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会、2015 年 5 月発足)

活動実績:月次開催 8 回、参加者:78 名(会員:58 名、非会員:20 名)

活動内容:「機械学習勉強会」(第 8 期 1 月～第 9 期 12 月)&「シニア技術者勉強会との交流会」計 4 回

- ・ 実装テーマ: 会話の記録と分析、顔認識を活用したセミナー参加者の満足度分析

第9期1月より次期活動に向け準備のためコアメンバー勉強会を実施中
活動成果:2018年12月15日オープン活動発表会「機械学習に触れてみよう! &一からはじめるIoT 成果発表会」発表公開

■公開資料

【第九回総会】

2018/10/01(月) 先端IT活用推進コンソーシアム(AITC) 第九回総会

・第九回総会議案書 http://aitc.jp/consortium/data/statement_20181001.pdf

【会員アンケート(会員限定公開)】

・AITC第8期(2017年度)会員アンケート(会員限定) http://aitc.jp/consortium/data/questionnaire_2017.pdf

【AITC第8期(2017年度)活動成果発表会】

・コンテキスト・コンピューティング研究部会:

「情報の信頼性評価を活用した 個人の意思決定支援モデル」

http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika1_CC.pdf

・クラウド・テクノロジー活用部会:

活動成果報告 http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika2_Cloud.pdf

・ビジネスAR研究部会:

「AR等感覚拡張技術の現在と未来」http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika3_BizAR1.pdf

「AJ(Automated Judgement)とAH(Augmented Human)」

http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika3_BizAR2.pdf

「なぜ、3Dデジタル空間がこれからのITのインフラになるのか」

http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika3_BizAR3.pdf

・ユーザーエクスペリエンス技術部会:

～マンガ駆動開発ではじめるUXデザイン～http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika4_UX.pdf

・協働プロジェクト:

『空気を読む家』5th シナリオ 空気を読む家のキッチン

http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika5_%E5%8D%94%E5%83%8D.pdf

・第8期オープン活動報告 http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika6_Open.pdf

・AITC女子会活動報告「チーム:ウマ天気」http://aitc.jp/events/20181001-Seika/20181001_seika7_Women_horse.pdf

【AITCセミナー&オープンラボ】

・身近になったAI開発シリーズ 第2回「ソニー Neural Network Console のご紹介」

https://www.slideshare.net/Sony_Neural_Network_Console_Libraries/20190313introduction-of-ai-development-neural-network-console-which-became-familiar

・量子コンピューティング シリーズ

富士通:「組合せ最適化問題」を実用レベルで解けるコンピュータ"Digital Annealer"とは

https://www.slideshare.net/aitc_jp/2019422-aitc

日立製作所:CMOS アニールマシン概要と開発状況

https://www.slideshare.net/aitc_jp/201973-aitc

【第9期理事会認定成果物】

・コンテキスト・コンピューティング研究部会 DEIM2019(第11回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム)

投稿論文「コンテンツの信頼性評価に関する考察」http://aitc.jp/pubs/cc/CC_deim2019.pdf

【プログラマーのための量子コンピューティング勉強会(会員限定)】

・関連数学と1量子ビット計算(会員限定)

・8月26日資料タイトル

【AITCシニア技術者勉強会】

・想い楽器(おもいがき) https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc

・無用な争い回避システム https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc-126317437

・IoTでダウジングしてみた https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc-iot

・スマートポスト https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc-126317510

【AITC女子会】

・会話の記録と分析 https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc-126317510

・顔認識を活用したセミナー参加者の満足度分析 https://www.slideshare.net/aitc_jp/20181215-aitc-161406942

第 2 号 議 案

第 9 期 (2018 年 度) 収 支 報 告 の 件

先 端 IT 活 用 推 進 コ ン ソ ー シ ア ム

第 9 期(2018 年度)収支計算書

2018 年 9 月 1 日 から 2019 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 9 期 予算	第 9 期 実績	差額	備考: 予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	7,286,342	7,286,342	0	
年会費	3,815,000	3,617,000	198,000	法人&個人事業主(10 万円) 34 会員 vs 32 会員 (後半期 5 万円) 0 会員 vs 1 会員 個人会員(1 万円) 40 会員 vs 33 会員 (後半期 5 千円) 0 会員 vs 5 会員 学会会員(3 千円) 5 会員 vs 4 会員 (後半期 1.5 千円) 0 会員 vs 0 会員
懇親会等参加費	130,000	390,000	△260,000	懇親会参加費: (4,000 円) 0 名 vs 19 名 (2,000 円) 0 名 vs 46 名 (1,500 円) 100 名 vs 116 名 (1,000 円) 200 名 vs 48 名
雑収入	81	80	1	利息
収入の部合計	11,231,423	11,293,422	△61,999	
2. 支出の部				備考: 用途別費用
総会開催費	(49,288) 200,000	249,288	0	懇親会費用: 177,669 円、講演謝金: 50,000 円 総会表彰額縁代: 21,619 円
活動支援金 (部会、勉強会)	1,000,000	455,569	544,431	レンタル・サーバー&商用 Web サービス: 114,180 円 他団体参加&活動支援(交通費補助等): 177,694 円 懇親会費(講師分補填等): 81,851 円 パンフレット印刷費等: 70,720 円 輪読用&参考書籍: 11,124 円
協働プロジェクト支援金	(242,336) 100,000	342,336	0	デモ機器購入費: 271,920 円 Backlog 年間使用料: 31,104 円 仮想専用サーバー費: 12,096 円 貸し会議室代: 27,216 円
イベント参加費	150,000	54,000	96,000	ソフトウェアジャパン 2019 サポーター費 54,000 円
技術セミナー、オープンラボ開催費	(142,291) 100,000	242,291	0	懇親会費(講師分&補てん分): 159,455 円 貸し会議室代: 82,836 円
シニア技術者勉強会&女子会 活動支援金(特別支援金)	(34,548) 50,000	84,548	0	シニア勉強会&女子会交流会費 81,870 円 書籍代 2,678 円
事務局経費	2,592,000	2,592,000	0	情報配信&サイト管理費: 1,296,000 円 上記以外の全事務局作業費: 1,296,000 円
通信費	10,000	8,823	1,177	宅配&郵送費: 6,213 円、レターパック等: 2,610 円
事務消耗品費	(4,888) 15,000	19,888	0	プリンター用備品費 18,414 円、事務用品費 1,474 円
雑費	20,000	15,587	4,413	名刺作成費 2,850 円、弔電&弔花: 9,471 円 振込手数料: 3,266 円
予備費	(473,351) 6,994,423	0	6,521,072	予算枠(473,351 円): 理事会承認をもって補てんした 予算超過科目※の合計金額(※総会開催費、協働プロ ジェクト支援金、技術セミナー・オープンラボ開催費、シニア 技術者勉強会&女子会活動支援金、事務消耗品費)
支出の部合計	11,231,423	4,064,330	7,167,093	
次期繰越収支差額		7,229,092	-7,229,092	
合計	11,231,423	11,293,422	△61,999	

貸借対照表

2019 年 8 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,369,092		
流動資産合計		7,369,092	
資産合計			7,369,092
【負債の部】			
前受金	140,000		
流動負債合計		140,000	
負債合計			140,000
【正味財産の部】			
正味財産			7,229,092
(うち当期正味財産増加額)			-57,250
負債及び正味財産合計			7,369,092

財産目録

2019 年 8 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	7,369,092		
普通預金	7,369,092		
横浜銀行	7,369,092		
流動資産合計		7,369,092	
資産合計			7,369,092
【負債の部】			
流動負債			
前受金	140,000		
流動負債合計		140,000	
負債合計			140,000
正味財産			7,229,092
負債及び正味財産合計			7,369,092

第 9 期(2018 年度) 監査報告書

監 査 報 告 書

2019 年 9 月 10 日

先端 IT 活用推進コンソーシアム

会長 鶴保 征城 殿

監事

水 谷 学



私 監事は、先端 IT 活用推進コンソーシアム会員規約第 31 条に基き、本会の会期と定めた 2018 年 9 月 1 日から 2019 年 8 月 31 日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端 IT 活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第 3 号 議 案

第 10 期（2019 年度）活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

本会の活動・運営方針

1) 活動理念

本会は、先端情報技術（以下、先端 IT と表す）にトライできる場、ワクワクできる場を提供し、先端 IT に明るい技術者の育成と先端 IT の活用を推進することで、IT 業界および IT が支える産業界と日本社会の発展に貢献することを目指す。

2) 活動の目的

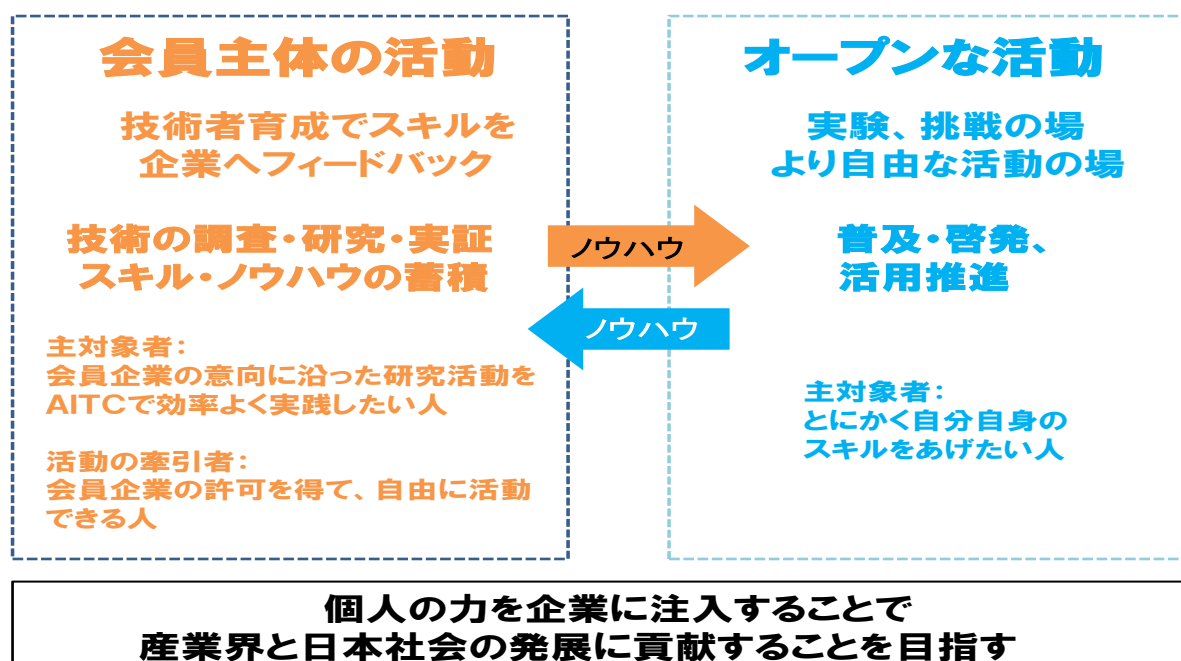
本会は、技術者の自立的な活動を支援し、個々の技術者が先端 IT を身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすため、次のような活動の「場」を提供することを活動の目的とする。

- ・先端 IT に関する情報をいち早く技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって、先端 IT に関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・失敗しても何度でもトライでき、先端 IT にワクワクできる場
- ・先端 IT の可能性を検証し、活用を推進する場
- ・得られた先端 IT の知見を発信していく場
- ・先端 IT に関する企業間交流の場

3) 活動方針

- ・一社ではできない活動、競合関係を越えた活動
- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・知見の発信・活用推進による社会貢献

4) 活動の体制



5) 活動の成果

- ① 部会や協働プロジェクトの成果として、以下を想定する。
下記は、理事会承認をもって認定成果物として公開される。
 - ・試用・検討報告書
 - ・実証実験報告書
 - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
 - ・プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など
- ② 下記は活動の成果として、都度、速やかに公開する。
 - ・成果発表会の発表資料
 - ・AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ、AITC 女子会、シニア技術者勉強会の講演/発表資料

6) 会員制度

会員種別	対象者	議決権	活動参加 注1	運営参加 注2	年会費 注4
正会員	法人 個人事業主	○ ○	○ ○	○ ○	10万円 10万円
準会員	個人会員 学会会員	X X	(要理事会承認) ○ ○	X X	1万円 3千円
特別会員	選任	X	(要理事会承認) ○	○ 注3	無料

注1：活動参加とは、下記全てに参加できることを指す

会員主体の活動（部会、協働プロジェクト、AIRC技術セミナー、会員限定の勉強会）
& オープンな活動（オープンラボ、AIRC女子会、AIRCシニア技術者勉強会）

注2：運営参加とは、理事、運営委員として本会の運営に携わることを指す

注3：特別会員は理事会の要請を受け、運営に参加することができる

注4：新規入会が後半期（3月～8月）の場合、半額をもって年会費とする

2. 第10期(2019年度)の活動計画

1) 第10期の重点施策

2010年9月に設立した本会活動も10期目となり、2021年8月の活動終了まで残り2期となる。このことを念頭に、今期は2年後の活動集大成に向け、この基盤となる活動の一層の充実に努めるため、今期の重点施策を定める。なお、下記以外にも有効な施策があれば、適宜、実施していく。

① 新しい技術領域、特に企業がこれからの技術として注目する新しい技術への取り組みを強化

本会では、これまでもIoT、AI、量子コンピューティング、ブロックチェーンなど注目度の高い技術にいち早く取り組み、会の内外から高く評価されてきた。今期もこの取り組みを堅持し、企業がこれからの技術として特に注目する新しい技術に積極的に取り組み、その中で何が使えるのか、何が残るのか、新しい技術領域を学び、調査・研究・検証するための活動に注力する。このため、現在の部会が対象としている技術領域に限定せず、AIRCでまだ取り組んでいない新しい技術領域にもチャレンジし、会員企業へのスキルとノウハウのフィードバックを一層強化する。

- ・企画者と知見を持つ人の連携を密に行い、知見を有する外部講師によるセミナーを開催、知見者との交流を図る
- ・「勉強会」を立ち上げ、参加者が共に学び、助け合いながら疑問を解くことで、その分野のスキル・ノウハウを有する技術者、とりわけ後続の技術者達に技術を広めていけるリーダー的技術者の育成に励む
- ・協働プロジェクトに新しい技術を適用、検証するなど試験的な取り組みを行い、得られたスキルと知見を会員内外に発信する

② 情報と知見の発信を更に強化し、先端ITの普及促進で社会貢献

設立以来、先端ITへの取り組みと調査・研究の成果を広く世に公開することにより、先端ITの普及を促進し、社会に寄与することを目指してきた。特に、この数年に亘る取り組みと情報発信の強化により本会の知名度は格段に向上し、注目度が高まった。今期も引き続き、有用な情報や知見を発信することで、技術者の裾野を拡大しつつ、実証実験等を通じて先端ITの活用例を提案し、更なる社会貢献を目指す。

- ・社会貢献に注力
外部組織・団体との連携活動において、本会の有する情報や知見を提供し活動に寄与することで、先端ITの普及促進と社会への貢献に一層努める
- ・活動の成果をタイムリーに発信
部会に蓄積されたスキル・ノウハウや研究成果を、「AIRCオープンラボ」や「成果発表会」で纏めて発信することで、技術者の裾野の拡大を図り、先端IT活用推進の足掛かりとする
- ・情報の速やかな公開で、活動を更にオープン化
セミナーやオープンラボ、成果発表会等の資料を、速やかに、かつ、検索し易い形での公開を徹底し、鮮度良くリアルタイム性の高い情報を外部発信し、先端ITの活用推進に寄与する。資料の公開には、引き続き、外部サービスも併用し、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする

③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの更なる強化

コンソーシアム活動に参加するメリットの一つに、企業の枠を超えた技術と人の交流が挙げられる。

設立当初より、本会では、同じテーマに関心を持つ技術者同士の交流は部会で、更に、部会間の連携活動である協働プロジェクトにおいて単一の部会にはない技術と人材の交流が図れるよう努めてきた。これに加え、2014 年からは新たに AITC オープンラボが、更に 2015 年からはシニア技術者向け、IT 女子向けの活動が加わり、IoT や AI など、新しい技術領域への取り組みにより会の知名度も Up し、多様な人材が参集するようになった。今や AITC の魅力の一つとして人的交流が挙げられる程であるが、今期はそれぞれの活動を更に充実させることで、会員内外を問わず多様な先端 IT 人材間の密なネットワークを確立し、会として、会員として、個人として、更なるパワーアップを目指していく。

・AITC オープンラボを軸に、若手技術者の育成を行う

先端 IT の活用推進を担う若手技術者に、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場を提供し、若手技術者の成長に寄与することを目指す。

・シニアプログラム(シニア技術者勉強会)で、シニア技術者の活躍を支援、若手技術者との交流の場を提供する
長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供し、併せて若手技術者との交流を通してシニア技術者の培ってきた知見・経験を若手技術者に伝承する場となることを目指す。

・IT 女子プログラム(通称:女子会)を軸に、「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する
より多くの IT 女子の参加を得て、先端 IT のスキル、ノウハウを習得してもらい、更に活動の企画や運営に関与してもらうことで、後続の IT 女子のリーダー役となれる IT 女子の育成を目指す。

④ 会期末(2021 年 8 月末日)に向け、AITC 活動の集大成となる活動を推進

会期末まで残り 2 期となったのを機に、社会と産業界における先端 IT の活用推進に寄与するにふさわしい活動と成果のあり方を追求し、集大成たる成果物の作成を開始する。

・部会活動の文書化を強化し、成果発表会やセミナーの発表資料のみならず、活用提案や提言書、ノウハウ集等、参照性の高い資料をまとめ、一般公開を進める

・協働プロジェクト「空気を読む家」では、新しいシナリオ作りやデモ開発を活性化し、試用・検討報告書、あるいは実証実験報告書等をまとめるための準備を加速する

・毎年、成果発表会では部会と協働プロジェクトを中心に一年の活動成果を発表する。今期からはより一層「成果発表会」の名称を意識し、これにふさわしいレベル(理事会認定の成果物相当)の活動成果を発表し、会期末に向けた活動集大成のための蓄積を行う

2)活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。部会活動を中心に、ユーザーインターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い技術分野をカバーするとともに、注目度の高い新しい技術領域(IoT、セキュリティ、機械学習/深層学習/強化学習、量子コンピューティングなど)に取り組んでいる。会員はいずれの活動にも好きだけ参加できるため、活動への関与の仕方次第で、幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会を得て、同時に多様な人との交流も可能になる。

第 10 期の活動対象分野



注: 黒字＝部会で取り組む分野 赤字＝AITC 全体(部会共通、勉強会やオープンな活動を含む)で取り組む分野

【新しい技術領域への取り組みについて】

第 5 期(2014 年度)は IoT、第 6 期(2015 年度)は機械学習にフォーカスした活動で注目を集め、第 7 期から第 8 期においては、引き続き IoT や機械学習・深層学習・強化学習に取り組むとともに、ブロックチェーンやロボットに取り組み、第 9 期は量子コンピューティング シリーズを開催するなど、先進的な取り組みが大いに注目、評価された。

今期(第 10 期)は、これから新たに登場するテクノロジーにも注目し、挑戦するとともに、引き続き、IoT、AI、量子コンピューティング等の技術分野に注力していく。

なお、上記以外の新しい技術領域に関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 各種アンケート(会員アンケート、AITC 技術セミナー、AITC オープンラボ等)
- ② AITC 会員専用「わいがや会議室」での要望入手やヒアリング
- ③ 運営委員会によるセミナー企画、開催
- ④ 新しい活動の立ち上げ: 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる

会員規約第40条(勉強会)

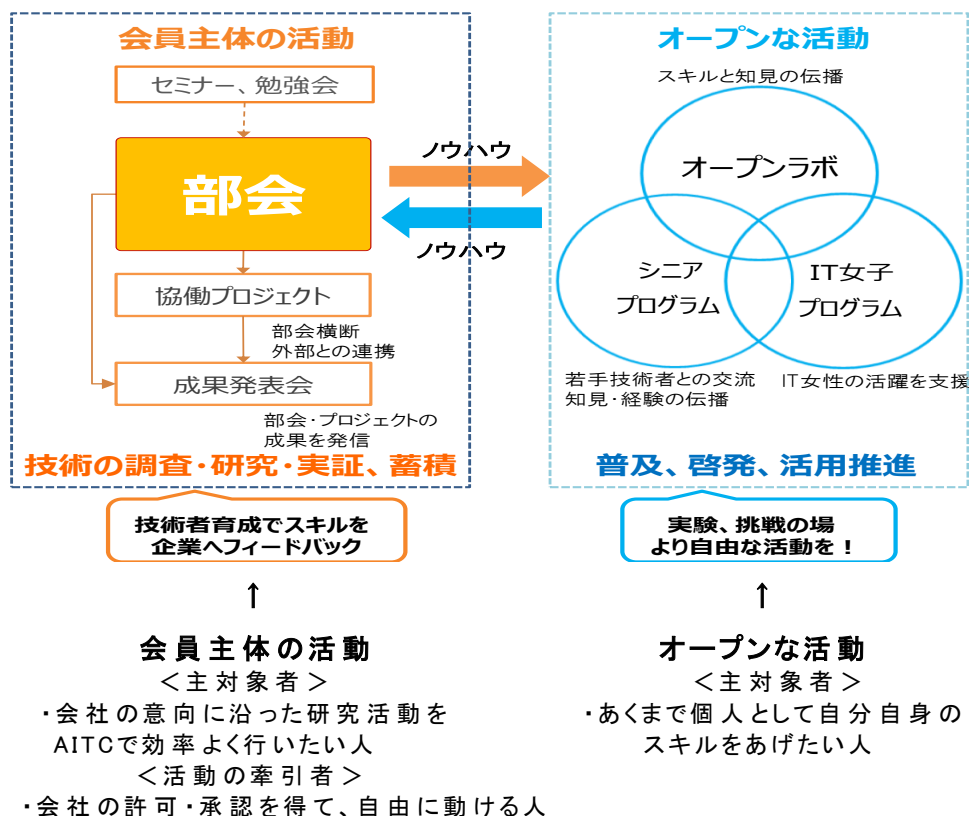
3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。

会員規約 第41条(部会)

3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

3) 活動の種類と関係性

会員主体の活動とオープンな活動の2系列で構成し、それぞれの特徴を活かしながら活動し、適宜、相互に連携することでより密度の濃い活動になることが期待される。今期における会員主体の活動とオープンな活動それぞれの構成は以下の通りとする。



【活動の概要】

会員主体の活動：

先端ITに明るい技術者を育成し、スキル・ノウハウを会員企業へフィードバックする活動を行う場

① セミナー(部会のシーズ)

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

- ・勉強会や部会のシーズとなる先端IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端ITを取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。

会員は希望するセミナーに、いつでも、いくつでも参加することができる。

② 勉強会(会員限定)

特定の先端ITを学び、試しに試してみる場

- ・部会のシーズとなる先端IT
- ・企業が注目している新しい技術領域

勉強会は、特定の先端ITを短期集中(3ヶ月～6ヶ月程度)で学習する場。

先端ITの動向を見ながら、また、会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく。

勉強会は目標達成をもって活動を終了するか、部会の活動にするか、勉強会後の活動形態を選べる。

会員は希望する勉強会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ 部会

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間、目標、活動の成果、具体的な活動内容や方法を定める。

定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。

会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

④ 協働プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。

実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。

先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。

会員は協働プロジェクトに参加することができる。

⑤ 成果発表会等

実活動に基づく情報と知見を共有する場

- ・部会や協働プロジェクトの活動内容や成果を会員内外に発表する

上記の発表会に加えて、他団体との共催あるいは他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT の活用推進を目指す。

オープンな活動:

非会員も参加可能な先端 IT の普及・啓発、活用推進の場、部会活動で得たノウハウを伝播する場より自由に、新しい技術領域に挑戦、実践する場

① AITC オープンラボ

部会とノウハウを相互に伝播する場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・会員内外を問わず技術情報・ノウハウを発信し、先端 IT の普及・啓発に寄与
- ・技術者の裾野を広げ、活用推進への足掛かりとしての知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側はオープンラボの挑戦、実践の結果のノウハウを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。

イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。

② シニアプログラム(シニア技術者勉強会)

シニア技術者と若手技術者が交流する場

- ・シニア技術者に先端 IT を学ぶ場を提供する
- ・シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承する

③ IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会)

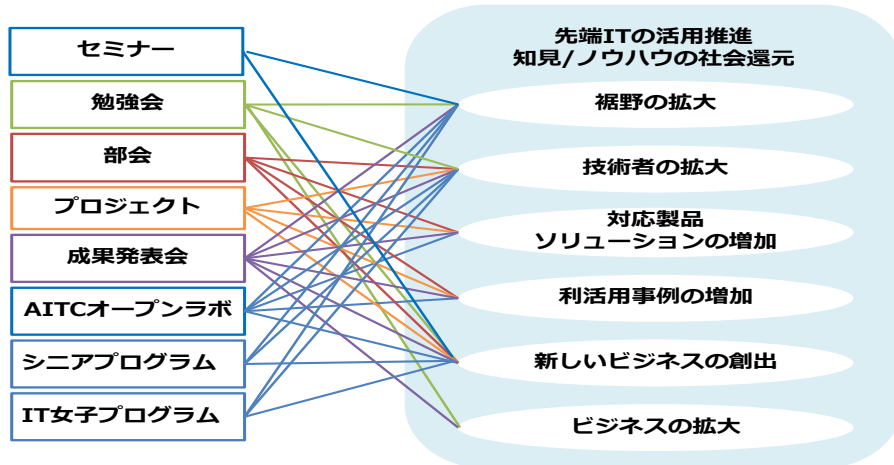
「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する場

- ・女性技術者に先端 IT を学ぶ場を提供し、活躍の場が広がることを支援する
- ・オープンな場での活動を通じて AITC を知ってもらい、AITC の活動への女性の参加と活躍を促進する

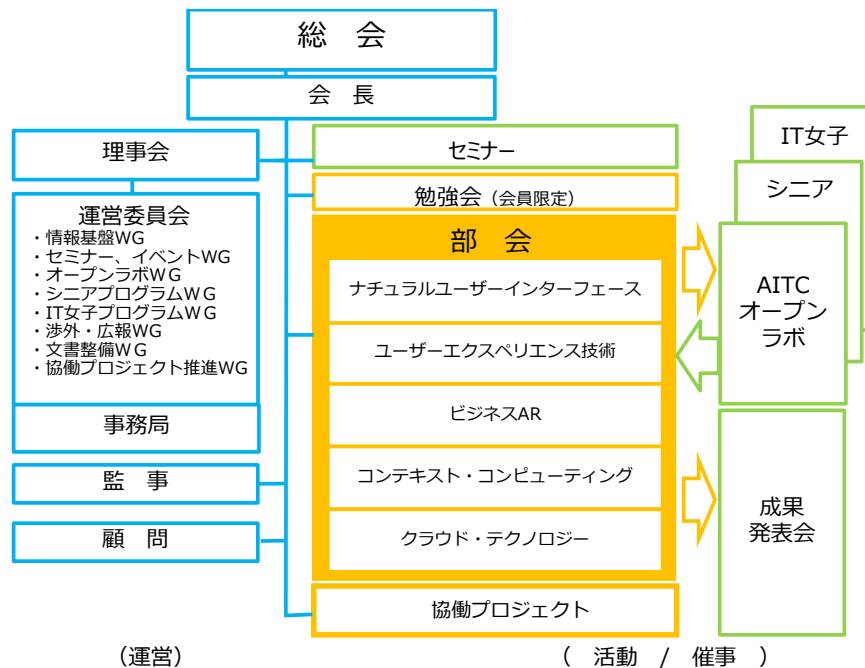
4) 活動の期待効果

先端 IT の活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果を想定する。

活動/催事の期待効果



5) 体制図



6) 年間主要活動計画

(年次) 2019年10月7日

理事会、第10回総会(1部:成果発表会、2部:総会)
総会記念講演、懇親会

2020年10月(予定)

理事会、第11回総会、総会記念講演、懇親会

(月次)

運営委員会、部会リーダー会
部会
勉強会(会員限定)
シニア技術者勉強会
AITC女子会

(随時)

合同部会
SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動
成果発表会
AITC技術セミナー
AITCオープンラボ
Webサイト更新作業
AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会
取材協力
外部主催の催事に対する出展、協力

第 4 号議案

第 10 期（2019 年度）予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 10 期(2019 年度)予算計画

2019 年 9 月 1 日 から 2020 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 9 期 予算	第 9 期 実績	第 10 期 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	7,286,342	7,286,342	7,229,092	
年会費	3,815,000	3,617,000	3,186,000	法人&個人事業主 28 会員×10 万円(280 万円) 個人会員 38 会員×1 万円(38 万円) 学会会員 2 会員×3 千円(6 千円) 注:総会開催時点の会員数で算出
セミナー等参加費	130,000	390,000	390,000	総会&成果発表会、技術セミナー、オープンラボ等 の懇親会参加費。各懇親会の原資として充当。 1,500 円×200 名、1,000 円×90 名を想定
雑収入	81	80	80	受取利息等
収入の部合計	11,231,423	11,293,422	10,805,172	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	200,000	249,288	250,000	懇親会費、講師謝金、賞状作成費、配送費等
活動支援費 (部会、勉強会)	1,000,000	455,569	500,000	機器機材購入/レンタル費、レンタル・サーバー費 外部会議室費、外部団体参加費、輪読用書籍代、 講師謝礼、懇親会費、パンフレット作成費
協働プロジェクト支援金	100,000	342,336	400,000	機器機材購入/レンタル費、合同部会懇親会費 等 外部会議室費
イベント参加費	150,000	54,000	100,000	外部イベントへの参加費等
技術セミナー、オープンラボ開催費	100,000	242,291	300,000	講師謝金、懇親会費 等
シニア勉強会 & 女子会活動支援金	50,000	84,548	100,000	機器購入費、外部会議室費、講師謝金、交流会費 等
事務局経費	2,592,000	2,592,000	2,640,000	事務局サポート要員費(各種の情報配信&サイト掲 載、会員管理&対応、セミナー等申込受け付け&運 営補助、財務経理、事務作業一般、対外対応等)
コンソーシアムサイト リニューアル費	0	0		
通信費	10,000	8,823	10,000	郵送料、宅配便費
事務消耗品費	15,000	19,888	20,000	
雑費	20,000	15,587	20,000	振り込み手数料、名刺作成費
予備費	6,994,423	0	6,465,172	
支出の部合計	11,231,423	4,064,330	10,805,172	
次期繰越収支差額		7,229,092		
合計	11,231,423	11,293,422	10,805,172	

特記事項 1: 支出の部の予算額は昨年の実績を参考に計上。予算不足が生じた科目は理事会承認を得て予備費を充当する。

2: サイトリニューアルの必要が生じた場合は、理事会承認を得て、予備費から充当する。

第 5 号 議 案

第 10 期（2019 年度）理事／監事選任の件

先 端 IT 活 用 推 進 コ ン ソ ー シ ア ム

第 10 期(2019 年度) 先端 IT 活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名 50 音順)

(交代)

ウルシステムズ株式会社	テクノロジーサービス本部	近藤 繁延
株式会社 NTT データ	技術開発本部 本部長	雨宮 俊一
富士通株式会社	プロフェッショナルサービス本部	
	第二プロフェッショナルサービス統括部 担当部長	林 正和

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
学校法人・専門学校 HAL 東京	校長	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部 本部長	齋藤 重幸
株式会社日立製作所	サービス&プラットフォームビジネスユニット サービスプラットフォーム事業本部 ソフトウェアCoE ソフトウェア生産技術部 部長	中島 恵
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
富士ゼロックス株式会社	エンタープライズドキュメントソリューション事業本部 スマートワークイノベーション開発部 部長	
	SS 領域統括マネージャー	倉繁 宏輔
リコーIT ソリューションズ株式会社	技術経営本部 本部長	木原 民

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社	取締役相談役	水谷 学
------------------	--------	------

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名 50 音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
国立研究開発法人産業技術総合研究所情報技術研究部門・ソフトウェアアナリティクス研究グループ付 経済産業省商務情報政策局情報産業課・ソフトウェア産業戦略企画官	和泉 憲明
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授	山本 修一郎
一般社団法人 MaruLabo 代表理事	丸山 不二夫

【ビジネス AR 研究部会顧問】

(留任) デジタルハリウッド大学大学院 専任教授	三淵 啓自
--------------------------	-------

【運営委員候補】(敬称略、社名 50 音順)

(留任)

アステリア株式会社	代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
アドソル日進株式会社	セキュリティ・ソリューション部 担当部長	荒本 道隆
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
ウルシステムズ株式会社	テクノロジーサービス本部	近藤 繁延
株式会社 NTT データ	技術開発本部 エボリューショナル IT センタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	社会システムデザインユニット シニアマネージャー	大林 勇人
ドリーム IT21	代表	田原 春美
日本ユニシス株式会社	Tech マーケ&デザイン企画本部 クロス Tech 企画部	牧野 友紀
日本ユニシス株式会社	プラットフォームサービス本部 サービス技術二部 部長	井上 英樹
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター ソフト共通技術部 部長	松山 憲和
富士ゼロックス株式会社	SOL 基盤開発統括グループ マネジャー・チーフアーキテクト	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	ソフトウェア&エレクトロニクス開発本部	
	コントローラ開発部 コントローラサービス開発統括グループ	
		門馬 隆
富士通株式会社	事業企画統括部 インキュベーションセンター	小森 斉
リコーIT ソリューションズ株式会社	技術経営本部 イノベーション推進室	飯沢 篤志
リコーIT ソリューションズ株式会社	ビジネスソリューションズ事業部 イノベーションデベロップメントセンター 第 1 イノベーション開発部 第 1 グループ	入江 弘憲

付属資料

第 10 期（2019 年度）活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト「空気を読む家」

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

9年目は、クラウドによって個人でも利用可能になった新しい技術(量子コンピュータ, AI)を試用した。

10年目は、それら新しい技術を現場で使用するための方法論も含めて学んでいく。

- ・量子コンピュータにおけるアニーリングで必須となる課題の定式化を議論
- ・AIでは既存ライブラリをクラウド上で使うための手順やインターフェイスを試作

また、これまで通り、クラウド全般やIoTについても取り組んでいく。

- ・測定(センシングなど): Arduino, RaspberryPI を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク): 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名, セキュリティ
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用): RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理、オープンデータの利用、アルゴリズム): R, AI, 量子コンピュータ
- ・出力(ビジュアライゼーション、外部操作): R, D3.js, ロボット, ROS

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。また、それらを使ったプロトシステムを開発し、運用を行う。

■活動計画

- ・クラウド関連の情報収集
- ・部会内勉強会 & ハンズオンの開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会 & ハンズオン資料
- ・オープンラボへの展開
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換

■体制(敬称略)

リーダー: 荒本 道隆(アドソル日進株式会社)

サブリーダー: 上村 準也(キヤノン IT ソリューションズ株式会社)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■活動計画

これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、理論と実践、応用の三つの面からの研究を平行して進める。

今期は、前期までに成果としてまとめた「情報内容の信頼」を活用した「社会知」について、その構築(知識獲得)と活用の調査・研究を実施する。

また、単なる自動化とは異なる「人と機械が協働する世界」を描き、そのメカニズムに関して議論する。

理論)意思決定理論や情報の信憑性など、関連研究に関する輪読・輪講

実践)構造化コンテンツを活用するための技術・実装の調査・試用

応用)「空気を読む家」におけるコンテキスト・コンピューティングの活用シナリオの検討、人と機械の協働によるちよっと気の利いたサービスの検討

■活動成果

- ・「人と機械の協働による社会知形成」実現に向けたコンテキスト・コンピューティング研究状況報告、および近未来の情報社会における情報基盤としての社会知の活用に関する提言書
- ・講演等の各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNS を使ったオンラインでのディスカッション
- ・顧問、有識者との意見交換
- ・外部イベントへの参加/発表

■体制(敬称略)

リーダー: 道村 唯夫(富士ゼロックス株式会社)

リーダー補佐: 牧野 友紀(日本ユニシス株式会社)

サブリーダー: 小林 茂(個人会員)

顧問: 和泉 憲明(経済産業省商務情報政策局情報産業課・ソフトウェア産業戦略企画官)

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

この数年来、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末・VR やセンサーネットワーク(IoT)、生活支援ロボット(AI)、3次元デジタル空間・構造物モデル(BIM、3DCAD)への期待の高まりが生じている。

このような潮流をテクノロジーの観点で俯瞰すると、人間のあらゆる感覚の拡張やITと人間が一体となった技術(総連携=我々が考えるAR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域である“Others”(シェアリングエコノミー、ローカル経済、里山資本主義(広域自給自足)、プロボノ等)が勃興しつつあり、人々の働き方や生き方が「一つの組織に縛られる」ものから変化・多様化していく中、世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえたARの活用(ビジネスAR)について、研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

- 1)ビジネスARを創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

- 1)空間OSの開発継続
- 2)「AJ(Automated Judgement)とAH(Augmented Human)」の研究継続
- 3)「なぜ、3D デジタル空間がこれからのITのインフラになるのか」の研究継続
- 4)VRを用いた遠隔MTGの実験及び実践
- 5)2019-2020 ここ1年のAR関連情報のアップデート
- 6)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など
- 7)オープンラボ、勉強会の実施

■活動成果

- 1)技術トライアル成果物の公開

■体制(敬称略)

リーダー:井出将弘(TIS株式会社)

サブリーダー:中川雅三(日本総合システム株式会社)

サブリーダー:西野貴志(個人会員)

顧問:三淵啓自(デジタルハリウッド大学院教授)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

ITシステムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から利用者にとってどんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。

また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。しかし、優れたUXを提供するITの実現には、先進的なUI技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。

このような状況の中、UXデザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体のUXだけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供するITシステムとは何かを探究する。

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していく。

■活動内容

AITC 発のUXアーキテクトプロセスである「マンガ駆動開発」を啓発と普及を目指し、集大成である書籍「マンガ駆動開発ではじめるUXデザイン(仮)」の執筆を進める。

また、協働プロジェクト『空気を読む家』を「マンガ駆動開発」実践の場と捉え、マンガ駆動開発の更なる洗練を行う。

■活動計画

- ・「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」の執筆
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』を対象にしたマンガ駆動開発の実践と洗練

■活動成果

- ・書籍「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」
- ・協働プロジェクト『空気を読む家』をの UX デザイン

■活動方法

- ・書籍「マンガ駆動開発ではじめる UX デザイン(仮)」の執筆を活動の中心とするため
週 1 回の Web 会議を開催。
- ・F2F のミーティングは 3 ヶ月に 1 回を計画
- ・適宜、SNS 上での情報交換

■体制（敬称略）

リーダー：松山 憲和（PFU テクノコンサル株式会社）

サブリーダー：神野 昌和（富士通株式会社）

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景／活動目的

前年度に引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

協働プロジェクト「空気を読む家」のなかで、日常的な人間の振る舞いが自然なインターフェースとしてシステムと繋がるようなフレームワークを検討、開発する。

■活動計画

NUI 技術及び事例の調査
勉強会、ハンズオンの開催
NUI フレームワークの開発
デバイス、ガジェット紹介イベントの開催

■活動成果

- ・NUI 利用技術の習得
- ・NUI フレームワークの公開

■活動方法

- ・Web 会議を中心とした部会ミーティング開催（UX 技術部会と合同）
（Face2Face ミーティングについては3ヶ月に1回程度、または合同部会のタイミングと合わせて実施）
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

- ・リーダー 岡村 和英（テクリエ）

協働プロジェクト「空気を読む家」

■目的

協働プロジェクトは、技術的なテーマを持って活動を展開している部会と連携し、以下を目的として活動を行っている。

- 1) 一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
- 2) 会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
- 3) 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■テーマ

超少子高齢化社会における安心・安全・快適な生活の実現という社会課題解決にチャレンジする「空気を読む家」をテーマとして協働プロジェクトの活動を行う。

「空気を読む家」は以下をコンセプトとする。

- ・「空気を読む家」は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・「空気を読む家」は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。

・「空気を読む家」は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

■活動内容

各部会の活動成果を結集し、「空気を読む家」を実現する。

・各部会の活動成果

- ユーザーエクスペリエンス技術部会が提唱する「マンガ駆動開発」によるユーザー体験のデザイン
- ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み
- クラウド・テクノロジー活用部会が取り組んでいる、IoT や深層学習などの先端 IT をもっと身近に体感
- ナチュラルユーザーインターフェース活用部会が研究している、真に自然なユーザーインターフェースの追求
- コンテキスト・コンピューティング研究部会で研究を進めている集合知、社会知の活用

協働プロジェクト全体の方向性や部会ごとの役割分担や部会間の連携については合同部会と部会リーダー会において決定する。

各部会は、決定された方向性、役割に従って「空気を読む家」の具体化を進める。

「空気を読む家」1 軒を部屋毎に建てていくイメージ(実際の「家」ではなくプロトタイプ)

- 家の各部屋(玄関、リビング、キッチン、寝室、浴室・・・)について、「マンガ駆動開発」により、課題抽出からユーザー体験をデザイン。
- ユーザー体験を実現する実証実験システムを、IoT、深層学習、自然なユーザーインターフェースを活用して構築
- 「空気を読む家」の大黒柱ともいえる「空間 OS」の拡充

■活動計画

2016 年度に『空気を読む』というコンセプトを明確にし、2017 年度はそのコンセプトを「忘れ物を見つけてくれるリビング」、「外出時に忘れ物を教えてくれるリビング」という実証実験によって具現化した。また、2018 年度は『空気を読む家のキッチン』をテーマにした実証実験を通してコンセプトの有効性を検証した。部屋個々の実証実験を終え、2019 年度は『空気を読む家』全体として『人を見守る安心安全な空気を読む家』をテーマとして取り組む。家の中の危険を検知し、危険の回避と予防に取り組む。

実証実験システムは 2020 年 2 月の完成を目指し、結果をイベントや学会などで広く外部に問う。

■活動方法

以下の取り組みで活動を行う

- ・部会リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- ・各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- ・部会間の意見交換会
- ・発表
- ・構築後のプロトタイプ公開等
- ・プレスリリース

■活動成果

協働プロジェクトの実施によって見込まれる活動成果

- ・実証実験システム: システム、各種仕様書、ソースコード、モジュールなど
- ・活動報告書

■体制(敬称略)

リーダー : 松山 憲和(PFU テクノコンサル株式会社)

推進役 : 部会リーダー、サブリーダー、運営委員有志

メンバー : 会員有志(状況に応じ、他団体との連携により非会員が参加)